

鹿児島県

[編集・発行] 鹿児島県奄美パーク
鹿児島県大島郡笠利町節田1834
電話 (0997) 55-2333
FAX (0997) 55-2612
<http://www.amamipark.com>

Vol. 5
2004 10月

奄美パークだより



奄美の郷コーナー

田中一村記念美術館展示リスト

奄美パーク応援隊

奄美パークからのお知らせ

徳之島

奄美の郷企画事業報告

春まつり



3月ライブステージ



平成16年3月21日に「島のグループ奄美・八重山・沖縄」と題した3月ライブステージを開催しました。奄美から唄者の築地俊造さん、八重山から島唄グループ「コーニーズ」、山元孝子琉舞道場（名瀬市）が出演。それぞれの島の色を感じさせる唄にて、訪れた観客は聞き入っていました。



あまみつ子フェスタ

平成16年5月4日「あまみつ子フェスタ」を開催しました。オープニングイベントとして笠利町立節田小学校児童によるアマンディー太鼓の演奏や、競技縄跳びの世界チャンピオンの木内友也さんによる縄跳びの指導などが行われ、子供たちが縄跳びを体験するコーナーは、用意した縄跳びが足りなくなるほどの人気でした。このほか、奄美手熱師会による竹細工の創作コーナーや、鹿島功児さんのマジックや腹話術、奄美パーク職員による〇×クイズなど多彩な催しがあり、子供たちは夕方まで思い思いに楽しんでいました。

春間近な奄美をアピールしようと、平成16年2月22日から3月7日までの期間、恒例の春まつりを開催しました。初回の22日は「島じまの響演」と題し伊仙町や知名町の太鼓や琉球舞踊、宇検村の稻すり踊りの他、同村芦検集落の「正月ギン」では、にぎやかな掛け合いとともにに入場したまわし姿の男衆と、女性陣が行事を再現すると、その迫力で会場は一気に盛り上がりました。

2月29日には女性ばかりの「サンガツサンチ」。3月7日には「瀬戸内町だより」を開催し、期間中は千人を超す観衆を魅了しました。

5月ライブステージ

平成16年5月16日に兵庫県在住のホルン奏者でつくる「アンサンブルグループ「クラシックアトリエ」のコンサートを開催しました。奏者は、五味淵友敬さん・横田桃代さん・左近亜紀子さんの3名。いずれもドイツ留学の経験があり、国内外で活躍されています。

通常、ホルンのみのソロやアンサンブルで演奏されることは少ないが、のびやかな音色が重なり合って生まれる深い奥行き、表現の豊かさをアンサンブルで披露しました。

二部では、「アマービレ吹奏楽団」が奄美パーカーで演奏を初披露し、コンサートに華を添えました。

ネリヤカナヤフェスタ

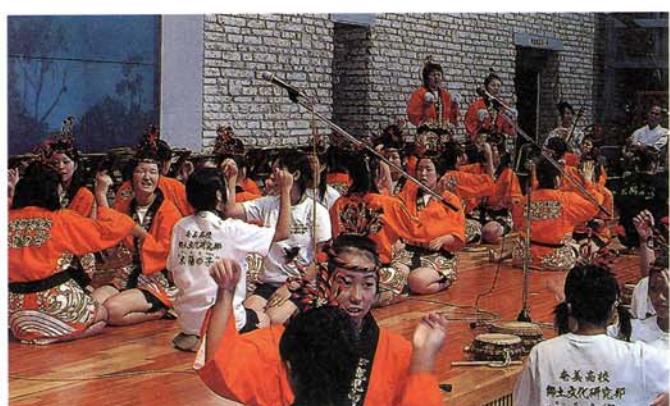
平成16年6月27日～7月31日の期間中「ネリヤカナヤフェスタ」を開催しました。同フェスタは、海をテーマにしたイベントで初日はオープニングイベントとして、瀬戸内町・

ホノホシ太鼓の勇壮な和太鼓の演奏で幕を開け、島唄、琉球舞踊、バンド演奏などをぎやかに開催しました。

このほか、期間中は展示物として、水中写真展、宇検村倉木崎海底遺跡展、ルアー等の展示、サーフボード展示等を行い来館者にたいへん好評を得ました。



平成16年7月25日にサマーアコースティックライブを開催しました。名瀬市のライブハウス「ASV」オーナーの麓憲吾さんはプロデュースしてもらい、「間弘志さん」「ひんだれ山」「海畠樂団（イノー）」の3団体が出演いたしました。島唄を交えた歌詞や、島の文化、風景、自然などをさわやかに歌いあげるオリジナル曲で観客を楽しませています。



平成16年8月22日「サマーコンサート」を開催しました。サマーコンサートは、毎年島唄を中心に開催しておりオープニングは奄美高校郷土文化研究部による「あさばな」でいさつがあり、続いて唄者9名による「あさばな節」の恋愛にまつわる歌詞を歌掛けでつなぎ、また、同じ島唄でも「東方節」と「北節」との唄い方の違いを観客のみなさんへ理解をしてもらったりと、観客と出演者が一体となつたイベントでなくやかに開催されました。

7月ライブステージ

サマーコンサート

田中一村記念美術館企画事業

第1回奄美群島写真協会展

榎木 孝明 展
(平成16年5月28日～6月10日)

鹿児島県菱刈町出身の俳優で1993年から全国各地で個展を開いている榎木孝明さんの個展を企画展示室で開催しました。展示した作品は、榎木さんが旅先でスケッチした風景画69点。インドや東南アジアの海辺を描いた作品のほか、あやまる岬やマンゴローブ原生林などの奄美の風景6点も展示了。



浜田 太 写真展
(平成16年7月19日～8月8日)

名瀬市の写真家浜田太さんの「奄美・光と水の物語」の写真展を企画展示室で開催しました。地域の血液「水」を基軸として、森や動物、人間、海とのかかわりをテーマに未公開約10点を含めた59点を展示了。



中村 哲郎 展
(平成16年8月15日～9月4日)

名瀬市在住の中村哲郎さんの日本画展を企画展示室で開催しました。「亜熱帯の視線」と題し、島の植物や風景などをモチーフにふとした情景を切り取った作品で、訪れた観光客や地域住民などはじっくりと鑑賞を楽しんでいました。



吉永 邦治 展
(平成16年5月2日～5月9日)

鹿児島県川内市出身の画家吉永邦治さんの個展「シルクロードと飛天の世界」を企画展示室で開催しました。



第1回奄美群島写真協会展
(平成16年6月12日～6月27日)

群島内在住の写真愛好家でつくる奄美群島写真協会展を企画展示室で開催しました。奄美群島写真協会の第1回奄美群島写真協会展を企画展示室で開催しました。

22歳から80歳まで年齢もテー

マも様々に、会員それぞれの視点で奄美を切り取った作品64点を展示了。今回の展示では特別な規制は設けず、会員の自由な作風による作品展を行いました。



ボランティアガイド募集中！

利用者の声

応援隊会員の声

南スミエさん

奄美パークでは、来園者に対し奄美の魅力や観光ポイントなどを紹介するガイドを募集しています。お客様との対話が好きな方、郷土のことをもう一度学んでみたいと思う方、きっかけは皆さんそれぞれです。得意分野だけの案内からでも結構です。興味のある方は事務局までご連絡ください。

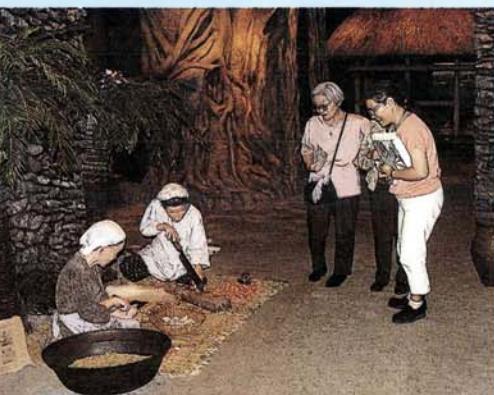
活動内容

- ① 展示案内ガイド（奄美の郷では、は鑑賞のポイントを案内する。）
- ② 手熱ガイド（来園者に対して、手織り、機織り、三味線、太鼓、ナシソテツ編みなど、島に伝わる遊びやモノ作りを通して島を紹介をする。）
- ③ 園芸サポート（園地の環境を考え慮しながら、奄美的な植生と森を構成する植物の植栽管理による演出展示を行う。）
- ④ 奄美パークの諸事業のサポート

応募資格

奄美パークまで各自で来園可能な方で、原則として養成講座終了後、ボランティアとして月2回以上無償で活動に参加する意欲のある一般成人。

応募方法
奄美パーク指定の登録用紙で申込み下さい。



奄美の郷総合展示ホールでガイドをする南さん(右)

◎「多田さんは植物や田中一村のお話を聞いていただき、大変勉強になりました。私は今まで行動することが多いので、解説していいました。田中一村の生き方に私はお金の為にあります。私が島特有のものか分かりません。多田さんが島原有のものか分かりませんでした。奄美パークでガードがなければ見過ごしてしまつていました。田中一村の絵は3ヶ月ごとに入れ替えます。でものね。多田さんから、「黒糖焼酎は奄美で良かったです。まさか壁に珊瑚や貝が使われているなんてびっくりしました。今度、奄美に行くときには別の季節に行きたいと思いません。田中一村の絵は3ヶ月ごとに入れ替えます。でものね。多田さんから、「黒糖焼酎は奄美でしか造られない」と同じ、思わず空港で買つて帰りました。今、冷蔵庫で冷えていました。近々、奄美の写真でも見ながら飲みたいと思います。」

(静岡県 女性)

◎「奄美パークでのご案内はとても良く分かりやすく理解できました。字を見るより耳から聞いた方が早く飲みこめます。また、奄美の多田さんのような方と出会えるのが旅の醍醐味。そういう、小さな感動が好きなのである。歩参加してホント良かったです。その後、一村の記念館にも皆で行つきました。多田さんにお話を伺つてお陰で、また違った感動しました。」

(神奈川県 女性)

◎「地元出身ではない一村なのに、これだけのものができたって大切な人、だつたことが太鼓を合わせて叩いてくれたので楽しかった。感動しました。」

(鹿児島県 女性)

◎「三味線の体験をしたがボランティアの方々が太鼓を合わせて叩いてくれたので楽しかった。感動しました。」

(北海道 男性)

◎「建物は通りいつぶんで見ることができます。ホテルの上空を飛んでいたのですが、私はただ鳥が飛んでいるとしか分かなければいけない島が増えました。」

(鹿児島県 男性)

◎「見たかった田中一村の絵も、多田さんのお陰で、じっくりと鑑賞させていただきました。朝の散歩のときは、多田さんのやさしいキャラクターのお陰で、奄美滞在中最も美しい時間でした。いつか、お会いでくる日がきそうな気がします。私も今月末で、ようやく定年退職になりますので、これからさき、ゆっくりと考えて、家内と一緒によく暮らしたいと思つてあります。また、いろいろな楽しい話題などがあります。ませんでしょ。」

(京都府 男性)

◎「奄美の郷総合展示ホールでガイドをする南さん(右)

それは傍らの珊瑚礁の海が思わせるのをどうか？仰ぐ空が思わせるのでしょうか？奄美パークにおける出会いと人、理念と具体化が同時にある場所として実際的にも私に問い合わせます。又、それは理念が必要か必要でないか、悩んできた私の肯定の場所でもあります。

ガイドをしていて思つことは、勿論初めて訪れる方も多いですが、二度、三度と訪ねて来て下さる方も結構多いということです。既に一度訪れたどなたかが新たに連れます。そして楽しそうに説明なさっています。そんな時、私のようなガイドは要りません。ただそんな時、展望台に御案内するか、あるいはイベント広場の二階レストラン入口にあるテラスへの自動扉の出口から海を眺めほしいと思います。

この開放感、自由感はまさしく天国への入口のような気がするからです。人を愛さずにはいられなくなるからです。理想と具体性の愛が一つになる瞬間が訪れるのです。旅にある方々の境地はまさにそのようなものではないでしょうか。奄美の精神文化としての来訪神と在住神の滞在する集落空間を再現した奄美の郷、そして田中一村記念美術館との出会い。奄美パークは静かな中にもドラマに満ちています。今度、よろしかつたらサトウキビジュースと一緒に飲みましょう！

わきや島自慢

**南島初の石積み竪穴住居跡が
発見されたウフタ遺跡**

龍郷町教育委員会 松村 智行

龍郷町では、国指定1、県指定1、町指定9の文化財があり、その他特別天然記念物などの希少な動植物が生息しています。

ウフタ遺跡は奄美空港から名瀬市の方に向に約15分、奄美クレーターを北側にのぞむ赤尾木にあります。

ウフタ遺跡は、昭和56年に工事中に発見され熊本大学により発掘調査が行われました。平成7年には町教育委員会が県立埋蔵文化財センターの協力で発掘調査を行い、石積み竪穴住居跡（弥生時代相当）をはじめ貴重な資料の発見がありました。

石積み竪穴住居跡は、奄美沖縄諸島で類似の発見例は多数ありますが、ウフタ遺跡のように壁を持ち多重構造で、積み石の状況や炉の様子など石積み竪穴住居跡の全体像が把握できる保存良好なもののが、南島で初めてで古代の奄美の人たちがどのような暮らしをしていたかが想像されます。



**奄美開墾の先駆者
田畠佐文仁の「山の神」祠** (大和村福元)
大和村産業振興課 大町 博之

佐文仁は1676年（延宝4年）に龍郷字龍郷に生まれた。薩摩藩が黒糖政策を推し進めていた1698年（元禄11年）に初代横目に任命され、更に1711年（正徳元年）に藩命により薩摩に渡り、国分宮内原新田開発に従事しながら新田開発技術の研究に取り組んでいる。1年間で工法を取得し帰島する。

その後、龍郷を手始めに名瀬、住用、大和等で開墾事業を手がけ、1739年（元文3年）までの28年間で約500ヘクタールの田畠を開墾している。

さて、この期間に大和村福元地区の開墾に1717年（享保2年）に従事している。

福元地区は奥深い山中であり難工事となり度重なる失敗や事故犠牲者が続発し、「山の神の祟りだ」という不安疑心が人夫間に広まつた。その時、佐文仁は山の神を忝り、犠牲者の冥福を祈る意味を込めて1720年（享保5年）に全体を見渡せる小高い丘の上に祠を建立した。

当時の新水田開発のため造られた「水路跡」と「山の神祠」は今もレストポリス水辺の広場内に現存している。



てんじしゅう TENJISITU

田中一村記念美術館開館3周年特別企画

「一村の描いた秋展」

展示期間(平成16年9月16日(木)～12月14日(火))

田中一村は50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたら絵を描くという生活を繰り返し、名瀬市有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えました。今回、千葉時代については、秋を描いた絵を集めてみました。

田中一村記念美術館常設展示室展示作品

常設展示室1

幼年期～青年期明治41年(1908)～昭和13年(1938)

- 大人顔負けの天才的な画才を現した10代の時の色紙。
- ・ハマグリ(色紙) 大正7年(1918年 10歳)
- ・喜慶芳色(色紙) 大正13年(1924年 16歳)
- 米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。
- ・扁額木(額装) 昭和2年(1927年 19歳)

千葉寺時代昭和13年(1938)～昭和33年(1958)

- 秋を描いた作品。
- ・ケイトウ(額装) 昭和7年頃(1932年 25歳)
- ・秋色(額装) 昭和20年代(1945年 37歳)
- ・秋色(額装) 昭和20年代(1945年 37歳)
- 奄美に渡る直前に描かれた作品。春夏秋冬を約40種もの植物で表現している。実際使っていた襖を当美術館に寄託された。
- ・四季花譜図(襖) 昭和33年頃(1958年 50歳)
- 23歳で南画と訣別を図ったが、個人からの依頼で、約20点ほどの模写を行っている。作品には做うという意味で「做…」と入れてあるが、確かな技量が感じ取れる作品。
- ・做鉄斎(軸装) 昭和22年頃(1947年 39歳)
- 30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。
- ・麦穂(色紙) 昭和19年頃(1944年 36歳)
- ・田園夕景(色紙) 昭和19年頃(1944年 36歳)
- ・牛を引く農夫(色紙) 昭和19年頃(1944年 36歳)
- ・千葉寺・秋(色紙) 昭和23年頃(1948年 40歳)

常設展示室2

- 「千葉時代」の素描。家には多くの鳥を飼い、愛情を注いでいた。
- ・素描・軍鶏(額装) 昭和28年頃
- 百姓と見まごうばかりの千葉寺の生活、身近な自然を描いた作品。
- ・カケス(額装) 昭和30年頃(1955年 47歳)
- ・千葉寺風景(額装) 昭和20年代
- ・千葉寺・農家の庭先(額装) 昭和20年代
- 九州・四国の旅昭和30年(1955年)
- 旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。
- ・青島の朝(色紙) 昭和30年頃(1955年 47歳)
- ・由布風景(色紙) 昭和30年頃(1955年 47歳)

- ・足摺狂濤(色紙) 昭和30年頃(1955年 47歳)
- ・鬼ガ城黎明(色紙) 昭和30年頃(1955年 47歳)

奄美の一村 昭和33年(1958年)～昭和52年(1977年)

- 「奄美時代」の色紙。
- ・海辺(色紙) 昭和30年代
- ・高倉風景(色紙) 昭和35年頃
- ・花と蝶(色紙) 昭和40年頃
- ・ハマユウ(色紙) 昭和50年頃
- ・魚(色紙) 昭和50年頃
- ・魚樵對問(額装) 昭和35年頃
緻密な写生を繰り返した「素描」。
- ・素描・エビ・素描・エビ・素描・魚
- ・素描・鳥・素描・トラフズク

常設展示室3

- 奄美を訪れて1年あまり経った頃描かれた仏画。
- ・釈尊大悟像(額装) 昭和35年頃
奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。
- ・奄美の杜(未完)(額装) 昭和30年代
- ・パパイヤと高倉(額装) 昭和35年頃(1960年 52歳)
- ・海辺のアダン(額装) 昭和35年頃(1960年 52歳)
- ・奄美の杜⑦～ビロウ樹(額装) 昭和40年代
- ・奄美の杜⑧～ビロウとブーゲンビレア(額装) 昭和40年代
- ・奄美の杜⑨～ビロウとアカショウビン(額装) 昭和37年頃(1962年 54歳)
- ・エビと魚(額装) 昭和51年頃(1976年 68歳)
一村を語るうえで欠かせない重要な作品。個人所有のため、複製を展示。
- ・ダチュラとアカショウビン(額装) 昭和42年(59歳)：複製
- ・奄美の杜⑥～クワズイモとソテツ(額装) 昭和47・8年(64・65歳)：複製
- ・アダンの木(額装) 昭和47・8年(64・65歳)：複製

奄美パーク・田中一村記念美術館

(平成16年度下半期)

図書寄贈御礼

平成16年6月~9月受入分

1 (1) 奄美の郷イベントステージ	210月日(日)、3月2021日(日)、
2 (2) 奄美の郷ライブステージ	フュウンメコソンサート
3 (3) 初春奄美パーカー	出演藤あしひみ他
4 (4) 初春奄美パーカー	で唄あしひみ他
5 (5) 初春奄美パーカー	藤あしひみ他

1 (1) 初春奄美パーカー	1月3日(月)
2 (2) 初春奄美パーカー	1月3日(月)
3 (3) 初春奄美パーカー	1月3日(月)
4 (4) 初春奄美パーカー	1月3日(月)
5 (5) 初春奄美パーカー	1月3日(月)

奄美パークから

お知らせ

様々な企画
満載です。

●始良町歴史民俗資料館常設展示案内

●屋久島環境文化センター

●屋久島の植物ガイド/山に白い海/海岸

●屋久島の野鳥ガイド

●屋久島の昆虫ガイド

●屋久島のコガガイド

●屋久島通信No.26

●宮之城町歴史資料研修センター

●鹿児島市立ふるさと考古歴史館年報

●宮之城町史/同町史資料編集センター

●石橋記念公園

●鹿児島県大島紬技術指導センター

●わざたちの大島紬

●鹿児島県教育委員会文化財課

●宮崎県総合博物館年報平成15年度第25輯

●宮崎県総合博物館研究紀要第25輯

●宮崎市総合博物館年報第9号/第43回

●良市総合博物館年報第9号/第43回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●宮崎県総合博物館年報平成15年度第25輯

●宮崎県総合博物館研究紀要第25輯

●宮崎市総合博物館年報第9号/第43回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●宮崎市総合博物館年報第9号/第43回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回



■奄美の郷 ■田中一村記念美術館

ライフラインの拠点になりました!



左記の機関から図書の寄贈がありました。厚く御礼申し上げます。

イベント案内

奄美パーク・田中一村記念美術館

(平成16年度下半期)

図書寄贈御礼

平成16年6月~9月受入分

1 (1) 奄美の郷イベントステージ	210月日(日)、3月2021日(日)、
2 (2) 奄美の郷ライブステージ	フュウンメコソンサート
3 (3) 初春奄美パーカー	藤あしひみ他
4 (4) 初春奄美パーカー	藤あしひみ他
5 (5) 初春奄美パーカー	藤あしひみ他

奄美パークから

お知らせ

様々な企画
満載です。

●始良町歴史民俗資料館常設展示案内

●屋久島環境文化センター

●屋久島の植物ガイド/山に白い海/海岸

●屋久島の野鳥ガイド

●屋久島の昆虫ガイド

●屋久島通信No.26

●宮之城町歴史資料研修センター

●鹿児島市立ふるさと考古歴史館年報

●宮之城町史/同町史資料編集センター

●石橋記念公園

●鹿児島県大島紬技術指導センター

●わざたちの大島紬

●鹿児島県教育委員会文化財課

●宮崎県総合博物館年報平成15年度第25輯

●宮崎県総合博物館研究紀要第25輯

●宮崎市総合博物館年報第9号/第43回

●良市総合博物館年報第9号/第43回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●宮崎市総合博物館年報第9号/第43回

●特別企画展『沖縄の染め機り』/第45回

●開園時間/9:00~18:00 (7月・8月は9:00~19:00)

入園は、閉園時間の30分前までです。

●休園日/毎月第1及び第3の水曜日 (祝日の場合は翌日)

(4月29日~5月5日、7月21日~8月31日は開園)

年末年始(12月30日~1月1日)

●施設観覧料/奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料

大人400円、高校・大学生280円

小・中学生200円、幼児(小学生未満)無料

●お問い合わせ

鹿児島県

〒894-0504 鹿児島県大島郡笠利町節田1834 Tel.0997-55-2333 Fax.0997-55-2612

<田中一村記念美術館> Tel.0997-55-2635 Fax.0997-55-2613

<http://www.amamipark.com>

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展

●福岡市美術館
所蔵品目録 古美術/目録 近現代美術/目録
本多コレクション/館所蔵100選/インテニア・ラウエニシヨン/沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展 沖縄の染め織りを中心とした染物展